

*** 帝国陸軍の戦闘機が引っかけた 60m 鉄塔検証—その 1、写真発見—**

アーカイブ室新聞 164 号で戦前、東京天文台構内にあった報時信号受信アンテナの 60m 鉄塔が 4 本あり、その 60m 鉄塔に帝国陸軍の飛行機がひっかけり墜落した陸軍の機密事件、その 60m 鉄塔の痕跡調査について記事を書いた。そしてアーカイブ室新聞 171 号に 26 吋赤道儀望遠鏡ドームにあった窓の鮮明な写真(写真 1)を発見した記事を書いた。ところがこの 26 吋赤道儀望遠鏡ドームの写真にはこの 60m 鉄塔の 1 本らしいものが写っていたのである。この写真 1 は塔望遠鏡のドームのテラスから撮影されたと思われる。



写真 1 ドームの窓がはっきりと写った昭和 20 年以前の写真

写真 1 に、③と入れたものが、その 60m 鉄塔の 1 本と思われるもの、③が 26 吋赤道儀望遠鏡ドーム、⑤が焼失前の東京天文台本館の西端辺りの屋根である。この写真をお持ちであった天文情報センターの小池氏は、この鉄塔をロンビックアンテナの 1 本と思われたようであるが、ロンビックアンテナは IGY (世界地球観測年：1957～1958 年)を期して高さ 25m の 4 本の鉄塔が建てられたものであるから、昭和 20 年 (1945 年)に焼失した東京天文台本館と一緒に写真の中に写るはずがない。ならばこの鉄塔は、かの 60m 鉄塔の 1 本で

はないかと考えられる。そこで東京天文台の建物配置図上で検証を試みた。図1は昭和8年(1933年)3月31日現在のものである。

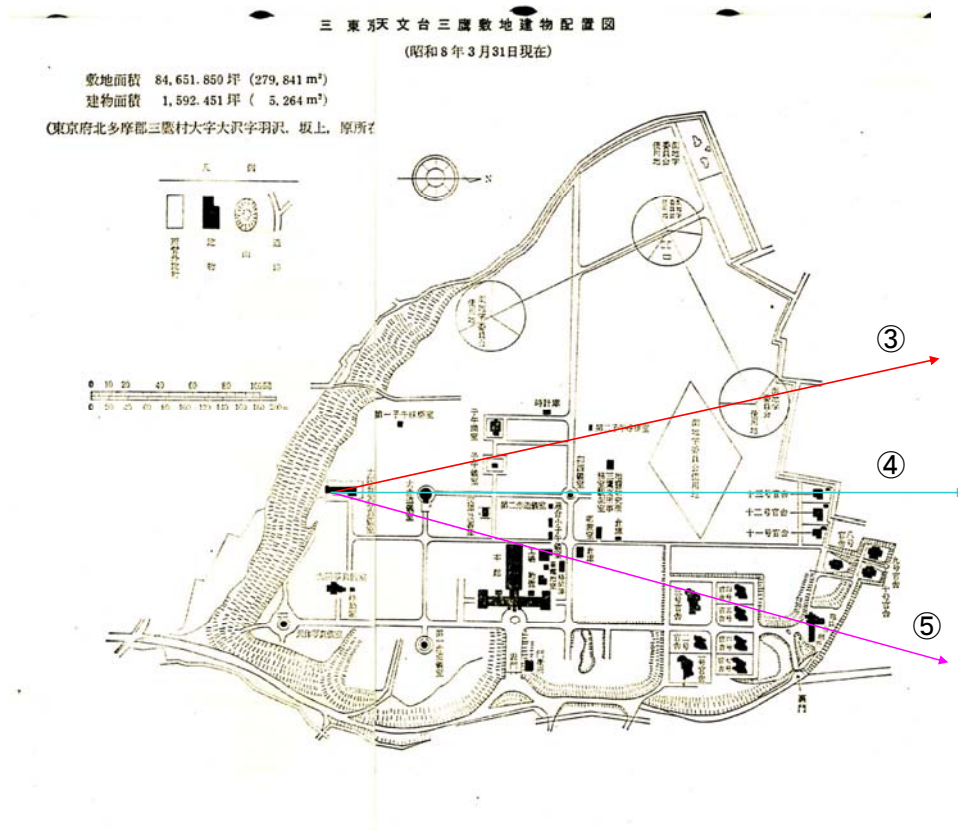


図1 昭和8年(1933年)3月現在の東京天文台建物配置図

図1に塔望遠鏡ドームのテラスから、写真1の③、④、⑤の方向に視準線を引くと③はぴったり60m鉄塔の1本を指すではないか。これはこの写真1に写っている鉄塔は60m鉄塔の1本である可能性を示唆している。

東京天文台90年史には次の記述がある。「高さ60メートル4本の空中線鉄塔は、昭和18年8月軍用機がこれに触れ、墜落するという事故が直接原因となって、終戦を眼前にした昭和20年(1945)4月、軍の手で倒され、以後木柱アンテナ数本に頼っていたが、IGY(1957年～1958年)を期して、再び高さ25メートルの鉄塔4基が立てられ、更に昭和39年(1956年)自立式鉄塔1基が追加された。」とある。